

“とちぎ”が描く 水力発電の導入拡大に向けたシナリオ

平成27年12月9日

栃木県 環境森林部 地球温暖化対策課

松本 茂

0. 本日、お伝えする内容

1. はじめに

「今、水力発電に取り組む背景は？」「県の特徴は？」

2. “とちぎ”の水力発電の現状と課題

「導入状況は？」「導入目標は？」「課題はなに？」

3. “とちぎ”の水力発電の導入拡大に向けた展開

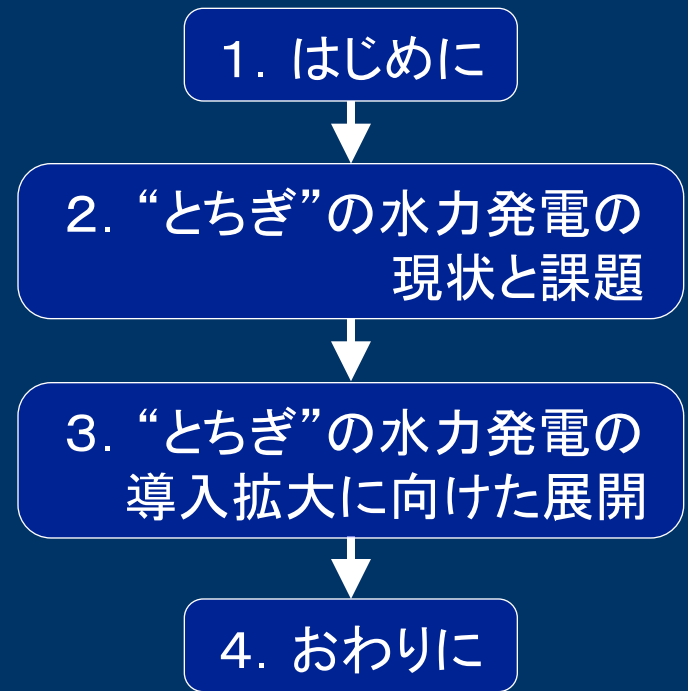
「どのような戦略？」「どのような施策を進めている？」

4. おわりに


「本日の話の要点は？」

水力発電の事業化に向けて調査等を進めている
足尾砂防堰堤(日光市足尾)

1. はじめに



(1) 再生可能エネルギーに取り組む背景

- 世界レベルで地球温暖化対策の取組みが進展。
 - 東日本大震災以降、我が国のエネルギー需給構造は大きく変化。
 - 県では、震災により県民生活・経済活動に深刻な影響を受けたことから、早期の復興とエネルギー対策を県政の重要課題に位置づける。
- 
- 省エネルギー化の取組みと併せ、再生可能エネルギーの積極的な導入拡大を進めている。

(2) “とちぎ”の自然特性

- ・県は、晴天日数、水資源、森林、温泉など自然特性に恵まれた県土。
- ・特に水資源については、河川の源である山地や森林を有し、豊富な水量を活用することが可能。



- ・県では、水力を重点取組エネルギーと位置づけ、その導入拡大に向けた様々な施策を展開。

【参考】水循環から捉える「水力発電」

「水循環基本法」(平成26年法律第16号)

第2条(定義)

この法律において「水循環」とは、水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環することをいう。

2 この法律において「健全な水循環」とは、人の活動及び環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環をいう。



【視点1】

- ※ 水力発電を継続的・安定的に稼働させるためには、「人の活動」と「環境保全」を調和させ、健全な水循環を保つ必要があると考える。
- ※ 再エネ(水力発電)を利活用する上で、「水循環」は重要な視点ではないか！

図-水循環の概念図

(出典:国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構ホームページ <http://sr.jaxa.jp/report/2012/feature02.html>)